

-Index- 紙上報告 夏季研修会「聴覚障がい理解研修会Ⅱ」
コラム：「伝える力」が未来をひらく～セルフアドボカシー～
第19回「きこえない」を知る二日展



紙上報告！夏季研修会①

「みみネットアカデミー（聴覚障がい理解研修会）Ⅱ」

本校主催の研修会について掲載します。今号では、「聴覚障がい理解研修会Ⅱ」の様子について、紙上報告します。

みみネットアカデミー（聴覚障がい理解研修会）Ⅱ

令和8年7月28日（火） 参加者30名

【講座】チームで支える難聴児の発達と学校生活

京都市聴覚言語障害センター 若狭 妙子 先生

今回は、ご自身も難聴者でいらっしゃる若狭先生から、ご自身の経験をもとに、子どもの心の葛藤や、保護者に寄り添う心のケア、具体的な支援についてご講演いただき、理解を深めることができました。参加者のアンケートを一部ご紹介します。

- ・難聴の方の思いや困り感を初めて知ることができた。
普段、指導している児童の思いを理解し、これからの手立てを考えるきっかけとなった。
- ・手話や視覚的に支援をすることで、輪郭の曖昧な世界を鮮明なものにするためのサポートを続けていきたいと思いました。
- ・困っていたことやご経験を想像しながら聞くことができました。今日聞いたお話を児童生徒の支援に繋がりたいと思います。
- ・子どもの立場からの思いをきけたのがすごくよかった。こちらはよかれと思っていたことばかりや、大丈夫そうと思ってたことが大間違いなことに気づけた。
- ・困り感など具体的に教えていただき、すごく勉強になりました。



【情報交換会】

- ・よく似た状況でどのように対応されているのかを知れてすごくありがたかったです。
- ・保育所ならではの悩みや困り感を共有することができた。保育所・学校・家庭の連携の大切さを感じることができた。
- ・難聴児と友だち・職員のコミュニケーションについて学ばせてもらいました。

アンケートのご協力、ありがとうございました！

（選択講座については10月号に掲載予定です）

コラム：「伝える力」が未来をひらく ～セルフアドボカシー～

セルフアドボカシーは本人の自立心を育てるための大切なプロセスです。今回は子どもたちのセルフアドボカシーを育む上で、大切な視点が大切についてまとめました。

- ▶ Step1.自分自身を理解する（障がい理解も含め）
自分に必要な配慮や支援を理解し、それを周囲に伝えたり、お願いしたりする力をことをセルフアドボカシーといいます。自分のきこえや弱みや強み、困っていることなどを理解するということが大切になります。
- ▶ Step2.説明する力の習得
これは子どもたちの発達段階が大きく関係してきます。子どもたちの様子を観察し、様々なことを経験すること、周りの大人に相談すること、自ら発信することなど、その子発達段階にあったアプローチをしていきたいですね。
- ▶ Step3.ゴール（目標）を目指す自律心を育む
子どもたちが自分の意見を伝え、ゴール達成のための方略を立てることに心をもち、ゴールへと進むプロセスを楽しむことは、将来の自律的な自分に成長するための基礎となります。

次回は発達段階におけるセルフアドボカシー学習について、文献を参考にしながら紐解いていきます。

第19回「きこえない」を知る二日展



10月9日(金)及び10日(土)に、本校文化祭にて、第19回「きこえない」を知る二日展を開催します。今年度も本校支援部が中心となり、きこえない・きこえにくいとは何なのか、楽しみながら学べる展示を企画しています。皆様のご来場を、お待ちしております。

〈日時〉

10月9日(金) 13:30~15:30

10月10日(土) 9:00~15:00

〈場所〉本校新館1階ホール

＼展示内容／

・SureTalk ・韓国交流 ・なんちょうなんなん

SureTalk (シュアトーク)



ソフトバンク株式会社様のご協力のもと、手話を使う人と音声を使う人との円滑なコミュニケーションを目指して開発されたサービス「SureTalk (シュアトーク)」を展示します。AIが手話や音声をリアルタイムで文字に変換する技術の実現に向けて、研究・開発が進められています。AIと手話がつなぐ新しいコミュニケーションの未来をぜひ一緒に体験しましょう！

韓国交流

本校では、韓国の忠州聖心学校と姉妹校として交流をしています。生徒たちは実際に韓国を訪問し、現地の学校生活を体験しました。交流を通して、お互いの学校生活や文化について学び合い、国境を越えたつながりを深めています。二日展では、交流会の様子や生徒たちの学びについて紹介します。生徒たちが広げた世界とのつながりを、ぜひご覧ください。



なんちょうなんなん



みなさんは「なんちょうなんなん」をご存じですか。

「なんちょうなんなん」は、難聴や補聴器、きこえにくさへの配慮などについて、子どもから大人まで楽しく学ぶことができる教材です。イラストや分かりやすい説明を通して、聴覚障がいのある人のことや、日常生活での困りごと、周囲の人にできる配慮について知ることができます。ぜひ「なんちょうなんなん」で、きこえの世界をのぞいてみましょう。



補聴器・人工内耳の「機内モード」をご存じですか？

飛行機での移動の際、補聴器や人工内耳を外す必要はありませんが、近年の補聴器や人工内耳の機器はBluetoothなどのワイヤレス通信機能を備えているものが多いため、航空会社のルールに従い「機内モード」への切り替えが必要です。設定するタイミングは「飛行機のドアが閉まったとき（または電子機器使用制限のアナウンス時）」、解除は「目的地へ着陸後、電波を発する機器の使用が許可されたとき」が目安となります。

機内モードに切り替えても、集音機能や音の処理機能は動いているため、**周囲の会話やアナウンスは普段通り聞こえます**し、本体のボタン操作でプログラムを変更することも可能です。制限されるのは、スマートフォンとの通信（音声ストリーミング）や外部ワイヤレスマイクなどアクセサリとの連動のみです。

修学旅行や移動の際は、事前に使っている補聴器や人工内耳の機器の機内モード設定手順を確認しておくで安心です。

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：塩谷、只腰、長谷川、萩原
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31
TEL. 06-7712-1405（支援関係）／ 06-6761-1419（学校代表）
FAX. 06-6762-1800